

2015年度 事業報告

◆ 教育・研究

ノートルダム清心女子大学

◎建学の精神および教育方針の明確化

本学の社会的評価は建学の精神に基づく教育の成果であるので、本学の伝統行事や教育活動を通じて、教職員ならびに学生に建学の精神が浸透するように努めた。また、本学ホームページをはじめ、山陽新聞の特集記事や多くの雑誌記事などで、本学の建学の精神とリベラル・アーツ・カレッジとしての教育方針を広報し、社会的な認知を高めた。

文部科学省の私立大学等改革総合支援事業のタイプ1「建学の精神を生かした大学教育の質向上」事業については、マルチメディア語学教育システムの活用を積極的に行い、ENGLISH LOUNGE の稼働をはじめとして、学生合同研究室、生涯学習センター、附属図書館等でのその積極的な利用に努めた。また、文部科学省の要請に応じて研究倫理教育を開始し、研究倫理と本学のコンプライアンスに関わる教職員の意識改善に努めた。

◎生涯学習拠点の充実と社会への貢献

生涯学習センター「清心フェリーチェ」では、ノンフィクション作家柳田邦男氏と本学の高木学長の特別講演を実施した。また、文化講座「いきがいの人間学」では人の生と死をみつめ、理念科目である「聖書講座」や文化講座「キリスト教文化への招待」等を通じて、キリスト教理念の社会への発信に努めた。

また、岡山県知事の主催する「おかやま子育てカレッジ」に協力し、「清心子育てプロジェクト」を展開した(2013年度から実施)。プロジェクトでは、「親子で遊ぼう・話そう(親子でクッキング、からだであそぼ等)」「保育講演会」をはじめ、ファミリーコンサートや劇などを行い、地域社会への貢献に努めた。

- ▶特別講演 ▶聖書講座 ▶文化講座 ▶実技講座 ▶親子で遊ぼうのびのび広場
- ▶リカレント養成講座 ▶キャリア養成講座 ▶高大連携講座(清心女子高等学校)

◎学生確保の強化と広報活動の重点化

質の高い学生の獲得のため、積極的な広報活動を実施した。ホームページの充実を図り、受験生への情報提供を推進した。高校訪問、入試説明会、高大連携講座を継続して、一人ひとりを大切にする本学の教育の特色を伝えた。また、6月、7月、8月、10月、3月と年間を通してオープンキャンパスを実施して、受験生とその保護者に直接に本学の特色を広報した。

清心女子高校学校に設けた本学への特進コースの高校生に対する講座も2年目となり、順調に推移している。

◎学生のキャンパスライフの支援

学生の自学・自習の場としてのラーニングコモンスの整備を図った。これにともない附属図書館の書庫の整備等を実施した。また、学生のクラブハウスの改築、自転車置き場の拡充が完了した。CALL 教室のマルチメディア語学教育システムが更新され、

その遠隔活用を含めて学生の語学に関わる学習の場の充実を図った。また、連携 GP 「産業界等との連携による中国・四国地域人材育成事業」終了後の保育職・教職をめざす学生に対する支援は、教職支援センターを通じて継続している。学生の就職活動については、その解禁の時期が再び変更されたが、それに対応すべくキャリアサポートセンターを中心に強力な支援を行った。その結果、高い水準の実就職率を達成した。

◎自己点検・自己評価の進展

大学基準協会による 2016 年度の認証評価に向けて自己点検・自己評価を進め、『自己点検・評価報告書』を作成した。本報告書は既に基準協会に送付され、2016 年度中の審査・実地調査を受け入れる体制を整えている。

◎地域社会・産業界との連携の強化

文部科学省による私立大学等改革総合支援事業のタイプ 2 「特色を發揮し、地域の発展を支える大学づくり」事業では、地域連携センターを通じて、包括連携協定を締結している岡山市教育委員会、山陽新聞社、早島町、こくさいこどもフォーラム岡山との有機的連携を推進した。また、産学連携センターでは、株式会社みのる産業（赤磐市）と株式会社第一化成（京都市）との間に包括連携協定を締結し、共同研究を行う基礎を築いた。

本学は、2014・2015 年度の「大学コンソーシアム岡山」会長校として、コンソーシアムの大学教育事業、社会人教育事業、産学官連携事業等の活動の運営・執行にあたった。この間、コンソーシアム参加 21 校と岡山県との包括連携協定を締結するなど、地域の産官学連携の一層の強化を図った。また、2015 年度から、岡山県立大学が主催する C0C+事業（地域の大学、自治体、企業、NPO 等による地域発展のための協同事業。文部科学省採択事業。）に参加し、岡山を知るための教材開発に着手した。

◎学内助成

- ▶研究助成 2 件 1,000,000 円
- ▶出版助成 2 件 816,000 円

清心中学校・清心女子高等学校

◎建学の精神にあふれる学校環境作り

学校評価の実施（アンケート形式）、行事等の実施

◎生徒の海外研修の実施、留学生等受け入れ

オーストラリア（中 3 修学旅行）、アメリカ（SGHa 関連）、ハワイ、ボルネオ島（SSH 関連）、第 9 回ユネスコ・ユース・フォーラム世界大会（個人参加）

◎高大連携事業、中大連携事業

高校生対象のノートルダム清心女子大学、川崎医療福祉大学、マレーシア国立サバ大学、ツンフセイオン大学等 8 大学と連携した授業、及び岡山大学法学部、九州歯科大学歯学部による中学生・保護者への授業など

◎生徒募集の充実

倉敷・岡山・総社地区中学校長との懇談会、学校説明会、小中学校訪問、塾訪問

◎校内研修

SSH 校内研究会(全教職員)、SGHa 関連講演(生徒・保護者対象)、教員研修会

◎教育助成事業

- ・ SSH 2 期指定高等学校最終年・・・SSH の卒業生の話を含めた講演会、全国の理系の生徒を集めて発表するなどの研究発表交流会、ディベート学習などを実施
(科学技術振興機構) 助成額 900 万円
- ・ 日本アジア青少年サイエンス交流事業さくらサイエンスプラン(科学技術振興機構)
鳥取大学での海外高校生との共同研究に参加 助成額 300 万円

◎教育研究事業

- ・ 清心英語授業研修会・・・岡山、倉敷市内の中学、高校英語教員対象公開授業・講演会
- ・ 課題研究発表会・・・中 3～高 3 年生による発表(参加者：中学校全学年及び保護者)
- ・ 中学 1 年生の調べ学習発表会(参加者：中学 1 年生、保護者)
- ・ 探求活動発表会・・・高 2 年生発表(参加者：中 1～高 2 年生)

ノートルダム清心中・高等学校

◎カトリック学校として、建学の精神をすべての教育活動の基本に置き、全人教育を目指した教育活動の充実に努める。

◎校訓「心を清くし 愛の人であれ」という教えを、日々の生活の中で、或いはボランティア活動などの体験を重ねることを通して、自己のあり方を考察できるようにし、社会の中で本当に必要とされる人材の育成を図る。

◎生徒たちが学ぶ喜び・充実感を持ち、自己の資質向上に意欲的に取り組み、学校に通うことに誇りが持てるように育成する。

◎学校の教育目標を共有し、互いに切磋琢磨しながら、自己の資質向上に意欲的に取り組む拓かれた教員集団になれるように努める。

◎新講堂等建設計画の具体的推進を図る。

◎社会情勢、教育情勢が大きく変遷している現状の中で、将来に対応できる本校教育のあり方を研究する。

◎広報活動、ホームページの充実

上記の目標を達成するための取組み

- ・ 教職員の聖書朗読、聖書を読む会を開催
- ・ 募金活動、物資援助等ボランティア活動の充実
- ・ 規範意識、マナー意識が低下していることに対し、生徒会、委員会活動を通して「礼儀正しいことは親切なこと」という本校の良き伝統の継承
- ・ その他、創立記念日講演会(ピースフォーラム)、進路指導・生徒指導研修会、広報活動、国際交流 等、生徒・保護者及び教職員を対象に実施した。

ノートルダム清心女子大学附属小学校

◎マナー向上と豊かな心の育成

- ▶よい習慣をつける「言葉遣いの意識化」
- ▶「質素で上品」であることの価値を具現化

◎児童の学力の向上

- ▶姿勢や学習用具の準備など、基礎学力・応用力の前提となる学習基盤作りに取り組む
- ▶子どもの潜在能力を見出して活性化させる施策を工夫する

◎教職員の指導力の向上

- ▶「自己肯定感を持てる授業づくり」について継続研究、公開授業、成果発表
- ▶内面に目を向ける教員理念研修
- ▶附属校として本大学と連携し、学校全体の指導力向上。授業研究の指導・助言を依頼。
また、大学児童臨床研究所と連携し、教職員、保護者、児童の相談の機会を持った。

◎発展につながる変化への対応

- ▶放課後預かりの機会拡大等、放課後活動の充実策を検討
- ▶広報活動に新たな視点で取り組む（英語教育施設対象のオープンスクール開催）
- ▶附属幼稚園との間に専願制度を導入

ノートルダム清心女子大学附属幼稚園

◎「心の教育」の推進

- ①愛されていると感じる心
- ②友達を大切に作る心
- ③困難を乗り越える心
- ▶宗教教育研修、理念研修、教職員黙想会、園内研修を開催、園外研修会に参加、聖書通読

◎モンテッソーリ教育の更なる充実

- ▶研究保育、モンテッソーリ教育に基づく補助教材の設定、研修会(学会)参加

◎保護者の参観日と研修

◎子育て支援の強化

- ▶就園前保育、預かり保育、卒園児のモンテカミングデー、園庭解放(在園児親子対象)

◆ 国庫補助金対象事業

[ノートルダム清心女子大学]

文部科学省「大学改革推進等補助金」

*地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)

※短期間の活動による未使用の補助金(360,000円)については、実績報告書の審査を受けた後に返還予定

◆ 施設・設備の整備充実

[ノートルダム清心女子大学]

・テレジア館の改築、附属図書館へのラーニング commons の設置、書庫棟の増築、駐

輪場の増設工事、関連事業

- ・ ノートルダムホール本館の外壁改修工事（南面の西側部分）（2/4～5年目）
- ・ 大学聖堂・2階部分の天井、壁の修繕工事
- ・ 食品栄養学科の教育施設設備の充実整備
（培養・組織化学実験室（120ND）への実験器具、装置の設置）
- ・ ノートルダムホール東棟の耐震補強工事（北側部分、聖堂、鐘楼まわりを補強）
- ・ パソコン教室（第10PIT教室）、大学院生室のパソコン更新
- ・ ネットワーク機器及びサーバーの更新
- ・ 中庭（ノートルダムホール東棟の南側）の整備工事
- ・ カリタスホールの変圧器（低濃度 PCB 入り 2 基）及び空調機熱源の更新工事
- ・ 一宮グラウンドの整備工事

〔清心中学校・清心女子高等学校〕

- ・ 第一受水槽揚水取り替え
- ・ 記念館 合併処理浄化槽チェッカープレート取替

〔ノートルダム清心中・高等学校〕

- ・ 講堂等建設工事関係
- ・ Web サイト（ホームページ）リニューアル製作委託
- ・ 高校生用シューズロッカー取替工事
- ・ プールサイド塗装工事
- ・ 体育館ボイラー用制御盤取替工事
- ・ 屋内消火栓・連結送水管の各ホースの取替
- ・ 中・高ボイラー用煙突修繕工事
- ・ クビリーホール301教室空調機器取替工事

〔ノートルダム清心女子大学附属小学校〕

- ・ 教科書の改訂による教師用指導書等の更新
- ・ 業者による各普通教室・トイレの床面の清掃・ワックスがけ
- ・ 教職員用の自転車置き場の増設

※なお、予定していた次の2つについては延期

- ・ インターネット関連の通信機器の更新
- ・ 普通教室の ICT 環境の改善と学校放送システムの更新

〔ノートルダム清心女子大学附属幼稚園〕

- ・ 創立 50 周年記念事業
- ・ 中庭の改修

◆ 財務状況

概況

学生生徒等納付金収入は、大学の入学手続者数の増と小学校の施設設備費の値上げ等により増収、手数料収入は受験者数の減少により減収となった。補助金収入は、前年度は改革総合支援事業の採択があったこと等により、国庫補助金は前年度比 80,073 千円大幅に減収した一方、地方公共団体補助金収入は 4,910 千円の増収となった。資産売却収入は今年度、大学の吉備高原セミナーハウスの土地・建物の売却により増収となった。付随事業・収益事業収入の増収は倉敷中高の寄宿舎会計や広島高の進路会計や小学校の教材費・用品販売等の増によるものである。雑収入は退職金財団交付金収入等の減少により減収、前受金収入は平成 28 年度入学手続者数の増加により増収となった。その他の収入では、広島中高が講堂等建築工事の経費のため、減価償却引当特定資産・建築資金引当特定資産合計で 610,300 千円を取崩し、倉敷高も減価償却引当特定資産 90,254 千円を取崩したため増収となった。その結果、当年度の資金収入合計は 5,648,817 千円となり、前年度比 3.5%増となった。

支出では、学生・生徒の募集や広報の強化経費、大学のテレジア館の改築、附属図書館へのラーニングコモন্ズの設置、書庫棟の増築、駐輪場の増設工事、ND ホール本館の外壁改修工事や東棟の耐震補強工事、カリタスホールの変圧器・チラーの更新工事等、広島中高の講堂等建設工事関係の業務委託費や敷地造成工事等、前年度に引き続き教育環境の充実整備、また施設や備品の老朽化に伴う改修工事や更新などを実施した。その結果当年度の資金支出合計は 5,805,538 千円となり、前年度比 15.5%増となった。

当年度の資金収支差額は△156,721 千円となった。(前年度資金収支差額 432,401 千円)

資金収支計算書

【収入の部】

学生生徒等納付金収入

概ね予算どおりの 3,358,543 千円を収納した。4,741 名分の授業料と 1,384 名分の入学金他を収納した。

手数料収入

大学、倉敷中、小学校の受験者が予想より多く、全体で 3,180 名分の入学検定料を収納し、試験料や証明手数料、大学入試センター試験実施手数料を併せた手数料収入は 82,649 千円となった。

寄付金収入

卒業生や後援会、母の会からの寄付等により、特別寄付金収入 35,473 千円、一般寄付金収入 5,536 千円を収納した。

補助金収入

国庫補助金収入 大 学 225,416 千円 (前年度比 80,073 千円減)

地方公共団体補助金収入 702,707 千円 (前年度比 4,910 千円増)

倉高 144,269 千円、広高 198,562 千円、倉中 83,757 千円、広中 143,870 千円

円、小学校 77,122 千円、幼稚園 54,164 千円、大学 963 千円

資産売却収入

大学の吉備高原セミナーハウスの土地・建物を(株)機能性食品開発研究所へ売却
付随事業・収益事業収入

補助活動事業収入は、収支を相殺した結果 32,434 千円となった。

大学 蒜山セミナーハウス会計他 △3,063 千円

倉敷 寄宿舍収入、購買会計、スクールバス会計他 16,421 千円

広島 購買会計、進路会計他 9,800 千円 ・ 小学校 教材費他 5,798 千円

幼稚園 スクールバス会計他 3,479 千円

他に大学の児童臨床研究所の附属事業収入 778 千円、生涯学習センターの公開講座
収入 1,551 千円、免許状更新講習料 4,765 千円、倉敷高の就学支援金事務委託料の
受託事業収入 422 千円を収納した。

受取利息・配当金収入

第3号基本金引当特定資産運用収入 561 千円とその他の受取利息・配当金収入
14,743 千円を収納した。

雑収入

施設設備利用料収入 1,636 千円、退職金財団交付金収入は 17 名分の 153,661 千
円、研究関連収入は大学の科研費間接経費受入額を収納した。その他の雑収入は大
学のコンソーシアムの職員給与受入金や幼稚園の創立 50 周年祝金等を収納した。

前受金収入(28 年度入学者)

授業料前受金 大学 592 名(前年度 581 名)

入学金前受金 全体 1,588 名(前年度 1,533 名)

施設設備前受金 大学・小学校・幼稚園 736 名(前年度 723 名)

寮費前受金 倉敷高入舎費 11 名と備品費 18 名分

その他の収入

退職給与引当特定資産取崩収入 倉敷高 23,000 千円

減価償却引当特定資産取崩収入 倉敷高 90,254 千円、広島中高 410,000 千円

建築資金引当特定資産取崩収入 広島中高 200,300 千円

預り金受入収入の予算比 18,520 千円の増額となった要因は、大学の入学辞退申出
者 49 名分の授業料、施設・設備費相当額を振替等によるものである。

当年度資金収入合計 5,648,817 千円

収入の部合計は前年度繰越支払資金 2,101,498 千円を加えた 7,750,315 千円となった。

【支出の部】

教育研究経費

修繕費支出

大学 テレジア館の改築、附属図書館へのラーニングコモنزの設置・書庫棟
の増築、駐輪場の増設工事等、ND ホール本館の外壁(南側面)改修工事、
ND ホール東棟(北側、聖堂・鐘楼まわり)の耐震補強工事、中庭整備工事、

	カリタスホールの変圧器(低濃度 PCB 入り 2 基)及び空調機熱源(チラー)更新工事、仮設動物実験室の設置、聖堂(2F 部分)天井・壁の修繕工事、パソコン教室(第 10PIT 教室)・大学院生室のパソコン更新他
倉敷高	合併処理浄化槽チェッカープレート取替
広島中高	受水槽移転新設工事等、旧駐車場内部室解体工事、プールサイド塗装工事、グランド倉庫移設・解体工事、ボイラー用煙突修繕工事、体育館ボイラー用制御盤取替工事他
小学校	業者による教室・トイレ床面清掃ワックスがけ他
幼稚園	各所営繕工事他
報酬・委託・手数料支出	
大 学	附属図書館・書籍移動費、パソコン教室・大学院生室のパソコン更新等、食品栄養学科の教育施設設備の充実整備工事、テレジア館の備品移動・復旧工事、ネットワーク機器及びサーバーの更新他
管理経費	
修繕費支出	
大 学	ND ホール本館の外壁(南側面)改修工事、ND ホール東棟(北側、聖堂・鐘楼まわり)の耐震補強工事、カリタスホールの変圧器(低濃度 PCB 入り 2 基)及び空調機熱源(チラー)更新工事他
広島中高	グランド内水路付替等工事、焼却炉撤去工事他
法 人	短大証明書発行システム移行経費
施設関係支出	
土地支出	
広島中高	講堂等建設工事に係る敷地整備設計・開発許可申請業務委託、グランド埋立に係る調査設計申請業務委託、JR 踏切先の土地取得嵩上工事
建物支出	
大 学	ND ホール東棟(北側・聖堂・鐘楼まわり)耐震補強工事、カリタスホールの変圧器及び空調機熱源更新工事他
倉敷高	第一受水槽揚水ポンプ取替
構築物支出	
大 学	中庭整備工事、一宮グランド整備工事及び体育館内コートライン整備他
広島中高	受水槽移転新設等工事他
建設仮勘定支出	
大 学	テレジア館の改築、附属図書館へのラーニングコモンズの設置、書庫棟増築、駐輪場増設
広島中高	講堂等建設工事に係る敷地造成工事部分払、追加工事部分払、グランド内水路付替工事
設備関係支出	
教育研究用機器備品	
大 学	パソコン教室・大学院生室のパソコン更新等ネットワーク機器及びサー

バーの更新、食品栄養学科の施設設備の充実整備工事、図書館坪田譲治コレクション室の整備他

広島高 シューズロッカー取替工事、屋内消火栓・連結送水管の各ホース取替工事他

資産運用支出

減価償却引当特定資産 大学 100,000 千円、倉敷高 23,000 千円、広島中 60,000 千円、第3号基本金引当特定資産 大学 10,000 千円、建築資金引当特定資産 倉敷高 5,000 千円、積立基金特定資産 法人 20,000 千円等を組み入れた。

当年度資金支出合計 5,805,538 千円となった。

支出の部合計は翌年度繰越支払資金 1,944,777 千円を加えた 7,750,315 千円となった。

事業活動収支計算書

【教育活動収支】

収入の部では、寄付金は特別収支で計上する施設設備寄付金を除いた 23,410 千円を、また経常費等補助金は特別収支の施設設備補助金を除いた補助金額 928,123 千円を計上した。付随事業収入では補助活動事業収入は、広島中高と幼稚園の在庫分(貯蔵品)の減少はあったが、32,183 千円を計上した。雑収入では資金収支計算書にない退職給与引当金戻入額を含み、教育活動収入計は 4,626,148 千円となった。

支出の部では、人件費は教職員人件費と退職金(倉敷高、広島高、小学校、幼稚園)、退職給与引当金繰入額の合計で 3,030,046 千円を計上した。

教育研究経費の金額は、減価償却額(固定資産の建物や機器備品等が時の経過により価値が減少する)以外は資金収支計算書と同じで、当年度の減価償却額に 407,260 千円、管理経費も同様に減価償却額 51,622 千円を計上した。また、大学の経常費補助金返還金 4,051 千円があったので、教育活動支出は 4,554,960 千円となった。

教育活動収支差額は 71,188 千円の収入超過となった。

【教育活動外収支】

一般的には、経常的な財務活動と収益事業に係る収支が計上されるが、本学園は受取利息・配当金の収入のみで支出はないので、教育活動外収支差額は 15,304 千円の収入超過となった。

【経常収支差額】 86,492 千円の収入超過となった。

【特別収支・・・施設設備補助金や資産処分差額など、一時的に発生した臨時的な収支の活動】

収入の部では資産売却差額に大学の機器備品売却差額、その他の特別収入に大学、倉敷中高、広島中高、附小の施設設備寄付金、図書等の現物寄付があり、特別収入計 22,306 千円を計上した。

支出の部は大学の吉備高原の土地、建物や、各学校園の構築物、機器備品・図書処分差額をあわせて 253,411 千円を計上した。

特別収支差額は 231,105 千円の支出超過となった。

基本金組入前当年度収支差額(当年度の収支バランス) 144,613 千円の支出超過

基本金組入額

第1号基本金(建物、構築物、教育研究用機器備品、管理用機器備品、図書) 764,002千円

第3号基本金 10,000千円

当年度収支差額 918,615千円の支出超過となった。

翌年度繰越収支差額 812,764千円の支出超過となった。

貸借対照表

資産の部では、有形固定資産の土地・建物は、大学の吉備高原セミナーハウスの売却で減少したが、構築物は大学の中庭整備や広島中高の受水槽の新設があり増額、またノートルダム清心女子大学と広島中高が工事の部分払い等を計上し、建設仮勘定は959,314千円増となった。その結果、有形固定資産は前年度比502,006千円の増額となった。また、特定資産は繰入や工事経費等支払のための取崩があり、前年度比500,292千円の減少となった。

流動資産は前年度比200,040千円の減少となり、資産の部合計は前年度比196,827千円減の25,805,855千円となった。

負債の部合計は52,214千円減の1,928,454千円となった。基本金は、土地や建物、図書等の有形固定資産の取得及び除却による増減を第1号基本金に反映しており、第3号基本金(奨学基金)への組入により、774,002千円の増加となった。純資産の部合計は前年度比144,613千円減額の23,877,401千円となった。

* 用語解説 *

学校法人会計について

学校法人も企業も経済活動を営んでいる点では同じですが、その事業目的に大きな違いがあります。企業は経済活動そのもの、利益の追求を目的としていますが、学校法人は教育・研究活動を推進し、人材の育成、その研究活動の成果を社会に還元することにあります。企業会計が損益を重視するのに対して、学校会計は「計算書類」によって、財務の面から教育・研究活動が円滑に遂行されたか否かを知ることにあります。国、地方公共団体から補助金が交付される学校法人は「学校法人会計基準」に従って会計処理を行い、「資金収支計算書」「事業活動収支計算書」「貸借対照表」の各計算書類の作成を義務づけられています。

資金収支計算書・・・当該会計年度(4月1日～翌年3月31日)に行った諸活動に対応する全ての収入および支出の内容並びに当該会計年度における支払資金(現金及びいつでも引き出すことが出来る預貯金)の収入および支出の顛末を明らかにするものです。

活動区分資金収支計算書・・・資金収支計算書の決算額を3つの活動に区分し、活動ごとの現預金の流れを明らかにするものです。企業会計で言うところのキャッシュフロー計算書に相当します。

事業活動収支計算書・・・一会計年度における収支均衡状態を測定し、経営状況を明らかにするものです。経常的及び臨時的収支に区分して、それらのバランスを把握できるようにし、さらに経常的な収支について「教育活動収支」「教育活動外収支」に細区分することにより、それぞれの収支状況を把握できるようにするものです。

資金の動きはないが実質的には学校法人の損益となるもの(現物寄付、減価償却額等)の情報を含んでいますが、資金の動きはあっても実質的に損益とならないもの(借入金等収入、資本的支出(施設関係支出・設備関係支出)等)の情報は含みません。

貸借対照表・・・当該年度末における資産・負債・基本金及び収支差額を把握し、学校法人の財政状態の健全性を表すものです。

経年比較

資金収支計算書

(単位:千円)

科 目		23年度	24年度	25年度	26年度	科 目	27年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	3,357,267	3,358,140	3,375,331	3,345,112	学生生徒等納付金収入	3,358,543
	手数料収入	87,322	87,970	86,684	86,779	手数料収入	82,649
	寄付金収入	58,141	28,735	55,529	47,247	寄付金収入	41,009
	補助金収入	925,830	908,137	836,342	1,003,285	補助金収入	928,123
	資産運用収入	30,174	19,254	18,723	16,947	資産売却収入	60,461
	資産売却収入	0	35	0	50	付随事業・収益事業収入	39,949
	事業収入	24,266	34,746	33,969	23,758	受取利息・配当金収入	15,304
	雑収入	118,764	154,611	213,810	222,154	雑収入	174,879
	借入金等収入	0	0	0	0	借入金等収入	0
	前受金収入	588,230	620,510	594,130	596,840	前受金収入	608,190
	その他の収入	182,664	355,214	342,435	840,626	その他の収入	1,023,201
	資金収入調整勘定	△ 670,499	△ 650,259	△ 745,502	△ 724,120	資金収入調整勘定	△ 683,491
	前年度繰越支払資金	2,350,083	2,190,096	2,071,185	1,669,097	前年度繰越支払資金	2,101,498
	合 計	7,052,242	7,107,189	6,882,636	7,127,775	合 計	7,750,315
支出の部	人件費支出	2,971,674	3,024,177	3,140,761	3,148,939	人件費支出	3,064,894
	教育研究経費支出	648,971	624,408	744,898	746,827	教育研究経費支出	732,549
	管理経費支出	199,495	234,459	232,103	242,650	管理経費支出	333,483
	借入金等利息支出	0	0	0	0	借入金等利息支出	0
	借入金等返済支出	0	0	0	0	借入金等返済支出	0
	施設関係支出	494,092	664,665	422,930	311,222	施設関係支出	1,145,124
	設備関係支出	123,350	107,984	240,000	137,937	設備関係支出	124,928
	資産運用支出	301,325	290,712	237,397	283,065	資産運用支出	256,327
	その他の支出	190,395	193,614	262,561	196,853	その他の支出	192,505
	資金支出調整勘定	△ 67,156	△ 104,015	△ 67,111	△ 41,216	資金支出調整勘定	△ 44,272
	次年度繰越支払資金	2,190,096	2,071,185	1,669,097	2,101,498	翌年度繰越支払資金	1,944,777
	合 計	7,052,242	7,107,189	6,882,636	7,127,775	合 計	7,750,315

消費収支計算書及び事業活動収支計算書

(単位:千円)

2015NDSG

科 目		23年度	24年度	25年度	26年度	科 目		27年度	
消費収入の部	学生生徒等納付金	3,357,267	3,358,140	3,375,331	3,345,112	教育活動収入の部	学生生徒等納付金	3,358,543	
	手数料	87,322	87,970	86,684	86,779		手数料	82,649	
	寄付金	64,882	34,865	62,323	56,360		寄付金	23,410	
	補助金	925,830	908,137	836,342	1,003,285		経常費等補助金	928,123	
	資産運用収入	30,174	19,254	18,723	16,947		付随事業収入	39,698	
	資産売却差額	0	0	0	50		雑収入	193,725	
	事業収入	23,990	34,669	34,136	23,774		教育活動収入計	4,626,148	
	雑収入	122,502	164,536	217,795	234,571		事業活動支出の部	人件費	3,030,046
	帰属収入合計	4,611,967	4,607,571	4,631,334	4,766,878			教育研究経費	1,139,809
	基本金組入額合計	△ 178,532	△ 746,002	△ 515,395	△ 326,525			管理経費	385,105
消費収入の部合計	4,433,435	3,861,569	4,115,939	4,440,353	徴収不能額等	0			
					教育活動支出計	4,554,960			
消費支出の部	人件費	2,950,661	3,051,027	3,104,164	3,138,070	教育活動外収入の部	受取利息配当金	15,304	
	教育研究経費	1,034,424	1,005,851	1,133,566	1,158,206		その他の教育活動外収入	0	
	管理経費	244,883	283,229	284,038	296,930		教育活動外収入計	15,304	
	借入金等利息	0	0	0	0	教育活動外支出の部	借入金利息	0	
	資産処分差額	209,704	10,164	37,542	16,089		その他の教育活動外支出	0	
	徴収不能額	0	0	10	243		教育活動外支出計	0	
	消費支出の部合計	4,439,672	4,350,271	4,559,320	4,609,538		特別収支	資産売却差額	221
当年度消費収入(支出)超過額	△ 6,237	△ 488,702	△ 443,381	△ 169,185	収入の部	その他の特別収入		22,085	
前年度消費収入(支出)超過額	1,213,356	1,207,119	718,417	275,036	特別収入計	22,306			
基本金取崩額	0	0	0	0	支出の部	資産処分差額		253,411	
翌年度消費収入(支出)超過額	1,207,119	718,417	275,036	105,850	特別支出計	253,411			
					基本金組入前当年度収支差額	△ 144,613			
					基本金組入額合計	△ 774,002			
					当年度収支差額	△ 918,615			
					前年度繰越収支差額	105,850			
					基本金取崩額	0			
					翌年度繰越収支差額	△ 812,764			

貸借対照表

(単位:千円)

資産の部					資産の部	
科 目	23年度	24年度	25年度	26年度	科 目	27年度
固定資産	23,277,537	23,778,441	24,061,513	23,763,095	固定資産	23,766,308
有形固定資産	12,085,016	12,423,383	12,614,963	12,591,486	有形固定資産	13,093,491
その他の固定資産	11,192,521	11,355,058	11,446,550	11,171,609	特定資産	10,667,957
					その他の固定資産	4,860
流動資産	2,266,562	2,139,562	1,812,905	2,239,587	流動資産	2,039,547
資産の部合計	25,544,099	25,918,003	25,874,418	26,002,682	資産の部合計	25,805,855
負債の部					負債の部	
科 目	23年度	24年度	25年度	26年度	科 目	27年度
固定負債	1,246,482	1,257,886	1,232,673	1,206,594	固定負債	1,151,960
流動負債	762,255	867,455	777,071	774,074	流動負債	776,494
負債の部合計	2,008,737	2,125,341	2,009,744	1,980,668	負債の部合計	1,928,454
基本金の部					純資産の部	
科 目	23年度	24年度	25年度	26年度	科 目	27年度
第1号基本金	21,298,873	22,034,875	22,540,269	22,856,794	基本金	24,690,165
第2号基本金	0	0	0	0	第1号基本金	23,620,795
第3号基本金	628,370	638,370	648,370	658,370	第2号基本金	0
第4号基本金	401,000	401,000	401,000	401,000	第3号基本金	668,370
基本金の部合計	22,328,243	23,074,245	23,589,639	23,916,164	第4号基本金	401,000
消費収支差額の部					繰越収支差額	△ 812,764
翌年度繰越消費収入(支出)超過額	1,207,119	718,417	275,035	105,850	翌年度繰越収支差額	△ 812,764
消費収支差額の部合計	1,207,119	718,417	275,035	105,850	純資産の部合計	23,877,401
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	25,544,099	25,918,003	25,874,418	26,002,682	負債及び純資産の部合計	25,805,855

財務比率表

分類	比率	算式	23年度	24年度	25年度	26年度	分類	比率	算式	27年度
貸借対照表	消費収支差額構成比率	消費収支差額 総資産	4.7%	2.8%	1.1%	0.4%	貸借対照表	繰越収支差額構成比率	繰越収支差額 負債+純資産	-3.1%
	基本金比率	基本金 基本金要組入額	99.9%	100.0%	99.9%	99.9%		基本金比率	基本金 基本金要組入額	99.9%
	固定比率	固定資産 自己資金	98.9%	99.9%	100.8%	98.9%		固定比率	固定資産 純資産	99.5%
	固定長期適合率	固定資産 自己資金+固定負債	93.9%	94.9%	95.9%	94.2%		固定長期適合率	固定資産 純資産+固定負債	95.0%
	流動比率	流動資産 流動負債	297.3%	246.6%	233.3%	289.3%		流動比率	流動資産 流動負債	262.7%
	前受金保有率	現金預金 前受金	372.3%	333.8%	280.9%	352.1%		前受金保有率	現金預金 前受金	319.8%
	総負債比率	総負債 総資産	7.9%	8.2%	7.8%	7.6%		総負債比率	総負債 総資産	7.5%
	負債比率	総負債 自己資金	8.5%	8.9%	8.4%	8.2%		負債比率	総負債 純資産	8.1%
	基本金実質組入率	自己資金 基本金要組入額	105.3%	103.1%	101.0%	100.3%		基本金実質組入率	純資産 基本金要組入額	96.6%
	消費収支計算書	人件費比率	人件費 帰属収入	64.0%	66.2%	67.0%		65.8%	事業活動収支計算書	人件費比率
教育研究経費比率		教育研究経費 帰属収入	22.4%	21.8%	24.5%	24.3%	教育研究経費比率	教育研究経費 經常収入		24.6%
管理経費比率		管理経費 帰属収入	5.3%	6.1%	6.1%	6.2%	管理経費比率	管理経費 經常収入		8.3%
消費収支比率		消費支出 消費収入	100.1%	112.7%	110.8%	103.8%	基本金組入後 収支比率	事業活動支出 事業活動収入-基本金組入額		123.6%
帰属収支差額比率		帰属収入-消費支出 帰属収入	3.7%	5.6%	1.6%	3.3%	事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額 事業活動収入		-3.1%
学生生徒等納付金比率		学生生徒等納付金 帰属収入	72.8%	72.9%	72.9%	70.2%	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 經常収入		72.4%
寄付金比率		寄付金 帰属収入	1.4%	0.8%	1.3%	1.2%	寄付金比率	寄付金 事業活動収入		1.0%
補助金比率		補助金 帰属収入	20.1%	19.7%	18.1%	21.0%	補助金比率	補助金 事業活動収入		19.9%
基本金組入率		基本金組入額 帰属収入	3.9%	16.2%	11.1%	6.8%	基本金組入率	基本金組入額 事業活動収入		16.6%